

校内研を活性化

させるには?

(職員のやる気)

研の視点について

中部 (/) G

共通理解をつくる
価値観
(方法)

指導時の学習的リ
を中心とした学習共有化

各校の課題

学力と文章表現力
の関係を明らかに
する

見方
の工夫
実態に合
の工夫

意識的に
材づくり

集
すために...

テーマ

研究主任として

校内研を活性化させるには?

系統性を
意識し
つながりを考える

課題を出し
合う

計画を密に
視点をばらきせる

講師の招へい

ふんば
ふんば

ユーモアを交える
(笑合は子どもの
生活情報の伝合)

悩みや助きかとか
言いやすい書面製作

児童の話題を
取り入れる(出し合う)

次の指導の具体的な
方法を研究主任が
提案する

次に つながるイメージ
を共有

授業参観有り。自分のク
ラスとしての意識をも
てのぞむ。

子どもの具体的な表現
物で話し合う

具体的に何について
話し合うか、討議する
を共通理解する。

子どものゴール
を考える

明らかでないほうをも、選
んでいく。

ゴール

<p>各校の課題</p>	<p> (視点) 中部 (2) G 授業研の役割 授業研で出された課題を次へつなげるための工夫 の日常化への工夫 (活動加) </p>
<p>テーマ</p>	<p>次へつなげる授業研の有り方</p>



各校の課題

指導力
・1、1 数 学力の向上
(理解の深化)

全学年共通の
学習指導
共通理解を
学年間のつながり
学習指導

(教員間の)

テーマ インーグ化を図る (伝える力をつける)

問題点を考える

自分の考えをもつ、
流される。

聖的
方法が
ない

ル
ン
プ

解決策を考える

学年ごとのめざす
友達の見解を聞き
その上にて、理由付けをし見解を
自分の意見が言える

意見
えを
よく

具体例を出す

理由づけの紙訪法
(話し型)スル

全校共通の
取り組み

取り組みの確立

授業のふり返し
児童もふり返し
アンケート等

反省

複式の研究が(7-2)
全体のものになって
いない。

事前研のとり方

授業研究(事前
事後研)の在り方

4 「どう」と決めたとき

研究協議
イニ

各校の課題

研究主任として
何をすべきか
全教員を前向きに
できる力量

提案性のある授
業 全員が参加し
課題を共有できる
授業研究

研究協議の集めた
見協議の進め方
改善への
1つ

重要教材の分析

授業研究を深めるには?

こうすればうまくいく

事前研

模擬授業

教具作りの協力

点を明確に
(学習指導要領
研究テーマにそと)
員で教材理解

業者の思いを共
有する。
↓
提案性

何をこの授業で指導
したいのか(ねらい)
を明確に持つ。

まとめ
子ども達の言葉で

視点にそと参観し
気づいたことをメモ
し事後研に生かす。

わかる楽しい授業

研究
協議

協議内容をまとめ
共有する。
全員が1回は
研究授業の司会
をする。

全員発言で
組織の一員としての
自覚

視点にそと話し合い
(KJ法)改善策まで
出す。

KJ方式 全員参加
授業について考察を
深め共有化できる。

教具作り
(全員で)

週案の作製
(テーマに合わせての
意識強化)

学習会

統一した指導法

教材研究

日々の取り組み



系統立てた
 指型作成 グー学 表現力の育成

学校の到達目標 教科 学び合い
 の思い 細かに 教科 3日理科
 工夫

各校の課題

事後研 研究テーマ 次につなぐ 研究授業 校内研究授業の意識
 内容 授業研究 (事後研のもの) 取り組み 協議の仕方

音心志統

事後研を充実させるためには!!

めざす児童像の
 明確化
 教材研究を
 深める
 研究テーマめざす児童
 像と校内研の用紙
 に明記しておく
 日常の子どもの
 実態把握
 (子どもが喜ぶ姿が見える)

取り組みの日常化

児童の変容について
 定期的に話し合い
 の場をもつ
 検討したことの
 日常化に関する
 工夫を図る

改善策を次の授業
 研究に各学年で
 実践してみる。
 課題となった事
 についての共通認識
 とする。
 共通課題を見つけ
 協議されたことが
 次へ生かされている
 か、たっ?

指導案

研究テーマ児童像を
 指導案にわかるように
 研究テーマに基づいた
 展開例の指導案の
 この部分を書き
 入れる

講師招へい

参考となる(先進的
 な)取り組みの紹介
 や講師の招へい...など

効率的な協議の仕方

授業の指導要領にお
 ける、事前に話合い
 振り返る人を毎回
 決める。

教師がどう教えたか
 ではなく児童の学び
 についての話し合い
 にする。

〇〇小学校 指導
 修自を輪番で
 行う。

視点

視点をいっしょ
 にさせた振り返り

自分ならどう授業を
 するかを意見交換

グループ分け
 (K-J法 構造化)
 の視点を統一する

研究授業を日常に生かすには?
事後研効果的な持ち方

なかなか自分のスタイルをかえたい人が多い。

授業をかえたくてもヒマ(教材研究などの)

習ったことを生かすシステム作り

研究協議で出された内容をどう生かしていきか...

内容
方法

主任の仕事をする時間確保

みんなのものにつなげるには?

事後研で出された課題の整理。
渡目の公開授業のあり方。反省

授業・研究協議 ⇒ 曰く 課題をどう明らかにするか

目的確保

課題の共有

授業交換

1学年の課題を
2学年で意識
しあう
3学年で授業する

ブロックでの授業

会議の簡略化

研究主任
により

↓
研究部により

司会のまとめ
講師の助言
(まとめ)

研究をいかに職場づくり

日頃の人間関係にまめに声かけ
係づくり
管理職のリーダーシップ

成果の還元

同じ単元で
公開授業(対)

学びを活用する
場面設定

本時の授業 →
次時の授業の
課題を1つ明らかに

学力差をどううめ
るか。

子どもによって
「わかる授業」
を

授業研究の充実
・単元構想・団 研究
・模擬授業 授業の
・事後研 (7-73077)

<リレー授業>
課題を明確にし。
次へ進む。

各校の課題

B問題
数学的な考え方

学力向上のために西
本的に何をどう... 可方法

...の生かし方

人員増が必須

子どもの意欲の向上
大好き○○ro子

授業研究の活用法

方向性の確認
研究テーマ
(めざす子ども像)

授業に対する
自己分析力
課題の共有
・まとめる
・文書化

事後研

授業

その授業の
課題の焦点化
視点を決めて参観
する
(子どもを分けて見る)

課題は、個々^TC
・学級
・学校

事前研

模擬授業による
事前にもみあう
授業づくりのスタート
○○小の
(研究教科・テーマにそって)

指導案・ワークシート
資料を共有 (2年産の
担任が
使える)

活用・評価

課題の日常化
→ 自主公開授業
(指導案なし)

言評価 → 意欲へ

ゴールイメージの
共有 (子ども
教師)

学級経営力

土台

協働の意識
管理職・研究主任
リーダーシップ

研究授業を通して見えた課題も次へどうつなげていくか

研究授業のし点

事後研の効率化、
手回しを有効活用
にする
事前・事後研
のつな
ぎ方

各校の課題

事前研を充実させて共通理解をして研究授業にする

事後研の活発になるようワークショップのグループを固定化しない。

研の見方(視点)の方
↓
後研の持ち方 視点

テーマ

授業をつなぐ

めざす子どもの姿

P

↑ ↓

子どもの実態

●ファイリング
→ 研究のため

事前研
前回の課題を
確認
授業を見る視点、
評価規準

●ここをどうチェック
する?
・単元テスト
・国語学習汁
・チェックシート
(身につかせたい)

子どもの変化

C

ふたんの授業
(授業改善)

A

●チェックシート作成
前回の課題を
生かした項目

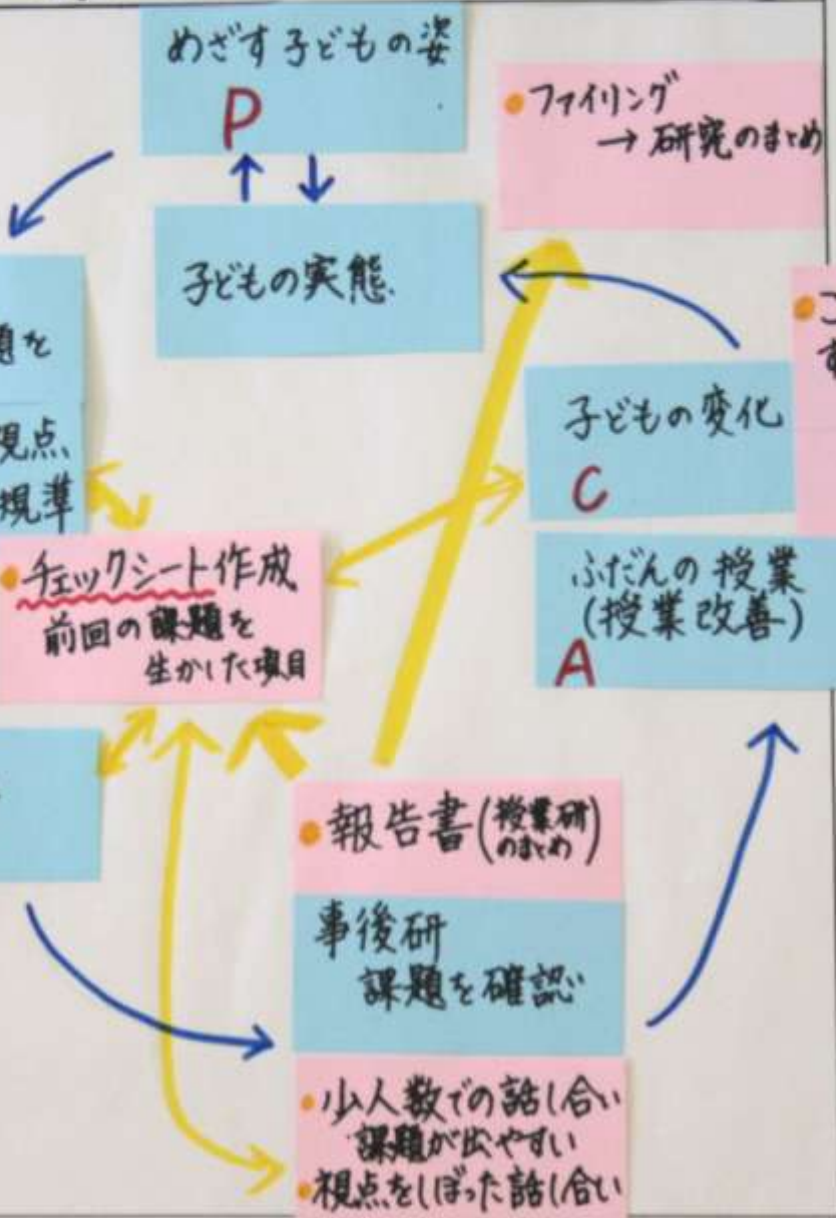
授業研

D

●報告書(授業研
のため)

事後研
課題を確認

●少人数での話し合い
課題が出やすい
●視点をしぼった話し合い



事前研
自分の課題も7

中部 (9) 協議の仕方

各校の課題

学級の課題
↓
見てほしいところ
指導案
変更と同化する

模擬授業

ポイントを絞って
授業研
授業の見方の
工夫

検証方法
事後研
視点を絞って

テーマ

授業研のもち方

研究主題達成

視点をしぼって

事前研

指導案
研究主題とかがわかって
書く。
授業の中で どういう
手立てが あるか、いいか
考える

課題の共有
(学習課題、児童の実態)

模擬授業

授業

学習課題が 児童や
授業のわらいに合っているか
チェックシートや付箋
の活用

学習形態の確立
(かかわり合い、
学び合い)
(ペア、グループ、全席)

事後研

協議の方法を
決めておく。(例) 話し
視点に合わせて検証し
改善点や今後の手
立てを考える。

実践に いるための
課題の共有

周わり合う学びのため
の人間関係づくり
目ざす児童の姿の具
体の共通理解を
いかに解

分かる → 楽しい
学び合いを深めるため
の手立てにスポットを
あてた授業作り(改善)

事後研を深めるため
(視点の明確化)

取り組みの検証
の仕方

10月

講師招へい
全授業研

ゆとりある学校
(おもしろい・楽しい)

授業研をどう行うか
(事前研・事後研...)

授業向上のために

ゴールイメージ

ゴールを意識させて
いこ
学校の課題の共通
認識
目ざす児童、授業態
を明確にする

予算(金)
人

授業研究のためには

講師招へいする
新しい情報
資料の提示
先進校への視察
視察研修
先進校の視察や
他の学級の様子
見に行き、学ぶ

日常的授業
公開
やってみて、どうだったか
話す場を設ける。
お礼金が支払できる
時間を作る。

具体的方法を
具体的にみながら
各よりの学校
学校全体での
体制作り(改善)
教科研究の仕方

各教科の系統
性の確認・共通
理解
授業研究の
充実
ブロー研の充実

学級経営の
サポート
ゆとりがある時間
を作る。
子ども理解のための
時間場を作るために
簡素化できるものは簡素化する
行事をへらす
子ども理解

体制作り

授業

各校の課題

研究の日常化
日々の実践にどう
生かすか。
教職員の意欲の
向上

研究内容について
具体的な付-ジ
教職員間での研究の
イメージ持たせるか

同僚性を高める
学ぶ意義を
子どもにどう持たせるか

校内研究

テーマ

研究の日常化への方策

次の
ステップ

共通理解

校内研修での新しい課題
を整理し、授業次の
授業改善につなげる

やりっぱなしにせず
その時の確認事項を
残す(掲示、通告)

取り組み例を
出し合う
(具体的な内容)

授業をみる機会をふやし
教員が子どもの学びの姿と成長
を共有し、共同で見取る場
をふやす。

研究テーマについて、教員
同士の学ぶ合う場の設
定。

全学級の授業を一年
通って見る。このための役
割を持つ教員の存在。

実践した成果を目に
見せよう。伝える。(とめる
レポートなど)

モデル授業の参観

・授業についての話を
日常的に同僚と話し

主体的に研究に
かかわる人を増やす
(とかい組織づくり)

個の高まり

自分の実践の変容
を認める

スパイラル

学校全体の高まり

研究部の取り組み
を評価してもらい、意
見をおねがひ。



児童の実態分析
学テ. CRT. 家庭学習
職員の間通理解

各校の課題

授業をみる視点を
はきりさせる。
(共有) チェック表!

研究授業の
参観の視点を
明確化

研究授業の視点を

先生の視点

単研を
実させる。

全校で共通認識を
持つ(同じ方向性)

子ども同士の学び合い
(聴き合い)を道徳
のために何をする。

テーマ

研究授業の視点

ブロック研の充実
教研だけ. 時間確保
同僚研
ブロック研 → 全校研

合う(学び
をつける。

児童の実態分析

児童の様子を
見取る。(役割分担
しておく。)

児童のかかわり合
いが下がっていたか。

児童の活動(関わり
発言. 書いた表現)に
注目する。

子ども達のために

管理職のビジョン
指導力

職員間で視点が
ぶれない。

めざす授業像と
教員間で持つ。

共通認識

単元の指導目標を
ふまえ. 具体的に
子どもの姿で 決める

単元でつけたいかに
教師・児童共に
理解しておく。

学習活動

この/時間下何を学ばせたか

(PDCA) 具体的な
改善案. を出し.
次に生かす。



授業を見る目、力、
視座の明確化

校内掲示の
充実

その後
のけて

行方

先(より
ない
点)

(授業の視座の
変化の課題)

研究授業や課題を
共有化しているのか

校内組織力
高い人が発言できる
環境に自覚と責任

組織的に動け
る部会

テーマ

みんなですすめる校内研

一人一役
責任を持つ。
若し、教員に役E
(責任)

(担当者もしてみる)

無理、できな

き業の禁止

一人一役(役割分担
や責任の所在を明確
にする)

全員が公用授業
を行うことでテーマに
通る

定期的

定期的には研究通信
を発行し、意思疎通を
図る

時間
約束
厳守
根本物

校内研で取り組んで
いかに子どもにも知地
球全体での取り組みに
ていく

管理職の
お手本 授業

授業・学校経営
のために
喜びに

やってよかったと
思える 授業研究

部会の時間確保
し、進む方向の共通
理解を図る。

確保

先進校への視察
順番に全員が

研修会参加後
→みんなの喜びに

多角(多め
よさの共有

失敗が許せる
教師集団。
全員発言できる
雰囲気

ゴール

中間検証。
ゴール到達の確認

明確な
ゴール

学校教育内容・活動
のシム(精選)
ト。

研究授業の実施
回数が数少ない

(14) G

授業研究のあり
方 → 授業改善につなげる

ワークショップ型の
研修もほとんど
ない

教育目標との
関連

各校の課題

事後研の
まとめ方

研究協議用
ワークシート作成

研究授業の
視点
学習指導案の
事前検討

テーマ

充実した授業研究を進めるために

研究授業などの事後
研をしっかりと
しない工夫。

時間確保として
事後研の日
を時間授業とする

時間確保

事後研

ワークショップでの発言
で、具体的改善策
を提案する。

事後研の充実のための
資料準備
1. 授業ビデオ 2. 授業
視点対比 3. 授業改善

(教科の特性より)
子どもの学びに絞った
研究協議

スーパーバイザー
の活用

日常

悩みを出し
合う

若手を育てる

研究授業をやるだけに
なく授業づくりの学習
も行う。

事前

事前検討会(30~40分)
↓ 資料の有効活用
ワークショップ形式にする

指導案の書か
方について、共通理解
研究主題とせよの観点から

学習指導案の
展開に視点を明確
に記入する。

研究テーマを元
に統一した視点を
指導案に盛り込む

参観用と事後研や
協議用のワークシート
をでき分け共通化する

教科の専門性を
他先生に分かりやすく
視点を説明する。

事後研で出した意見
を掲示して日常化

課題の共有化

教職員の
ベクトル合わせ

全教科、全職員で
共通して取り組む。

本校の課題を以て、
目指す授業。
生徒像を明確に
示す。→スタイル作り

思考力・表現力を高めた
授業の取組

・発問の工夫
(つらさを深める為)

各校の課題

テーマ

思考力を高めるための取組

全教員で
やりきる!!

授業スタイル
の確立

事前研の研り方

Ⓐ

思考できる
発問
発問とは、
「対立」と「分化」
を生むもの

Ⓑ

生徒が
思考する時間
確保
授業中に自分の
考えを「書く」
指導

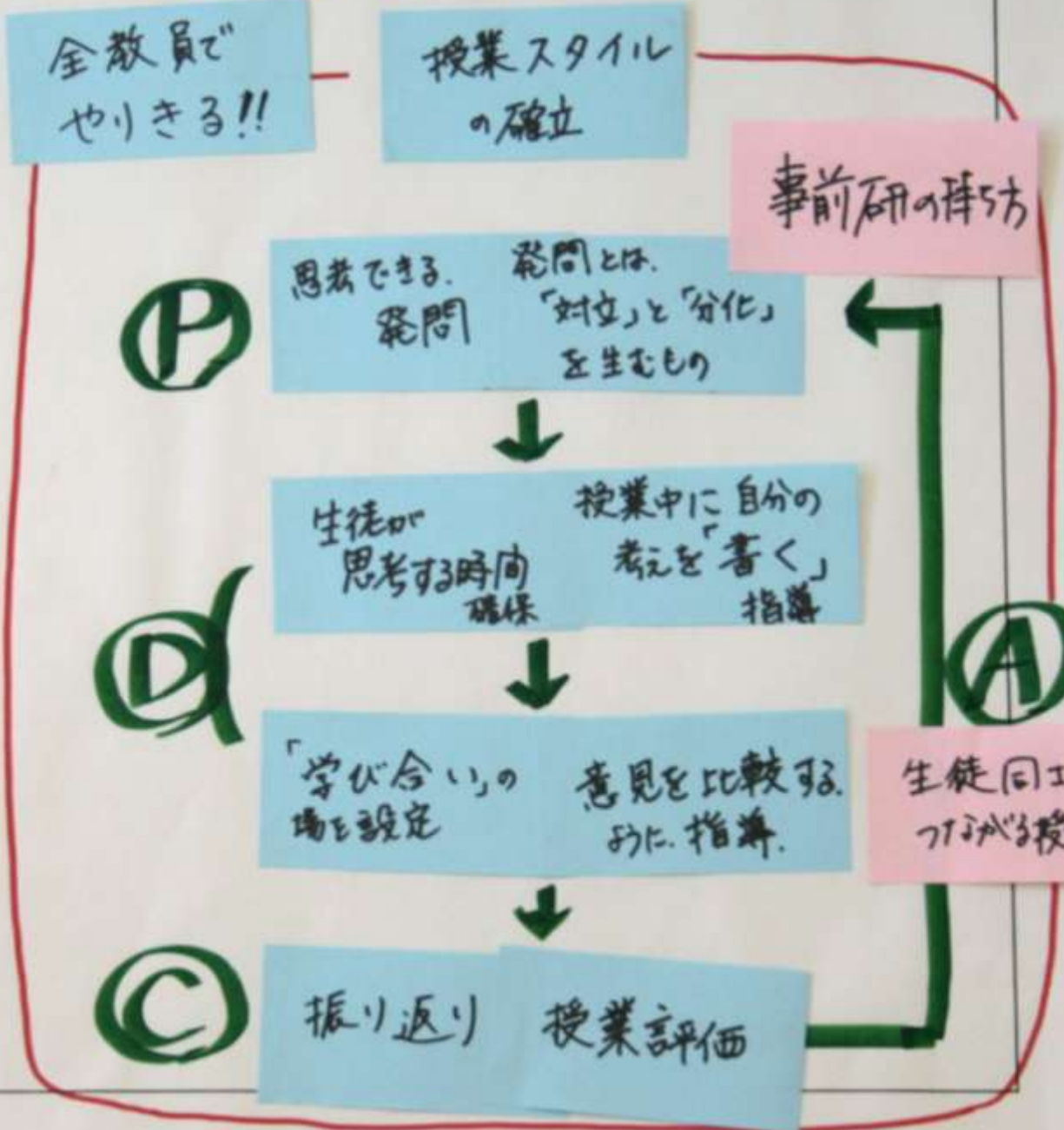
Ⓐ

「学び合い」の
場を設定
意見を比較する
めに指導。

生徒同士の
つながる授業づくり

Ⓒ

振り返り
授業評価



改善プラン作りには
全教員が関わり、
研究主任として、
発信すること。

協議の仕方
コミュニティスクール
の研究
教育機器をい
れ込んだ授業改善の
方法について。

人間関係つくり
生徒間・生徒と職員
職員間
CRT、学力調査等の
検証の進め方
生徒の主体性をひき
出す場面設定

(16) G
授業や生徒がどの
ように変容したのか

校内研修の推進
の達成感

テーマ 研究内容を日々の授業へ生かす方法

全教員で研究テーマ
を確認する



授業の約束事を
決める



生徒に分かりやすく
伝える



提示をする

課題

たえず発信をする

毎時間の授業へ
どう生かすか

通常の授業に、授業
研の成果をどうとり
入れていくか。



検

授業研の視点
に入れる

証

アンケートをとる

教員... どのように
実践したか

生徒... どのように
取り組んだか

各先生に 自分の
授業スタイルがある

約束事を精選する

日常の授業への
どうと入っているか！
日常の授業に
生かす手立て

授業研究/学習に、
研+全境研を、10年を
生かせるようにさせるため

ビジョンの共有
(研究の方向性
学習規律の徹底
(英語)教材

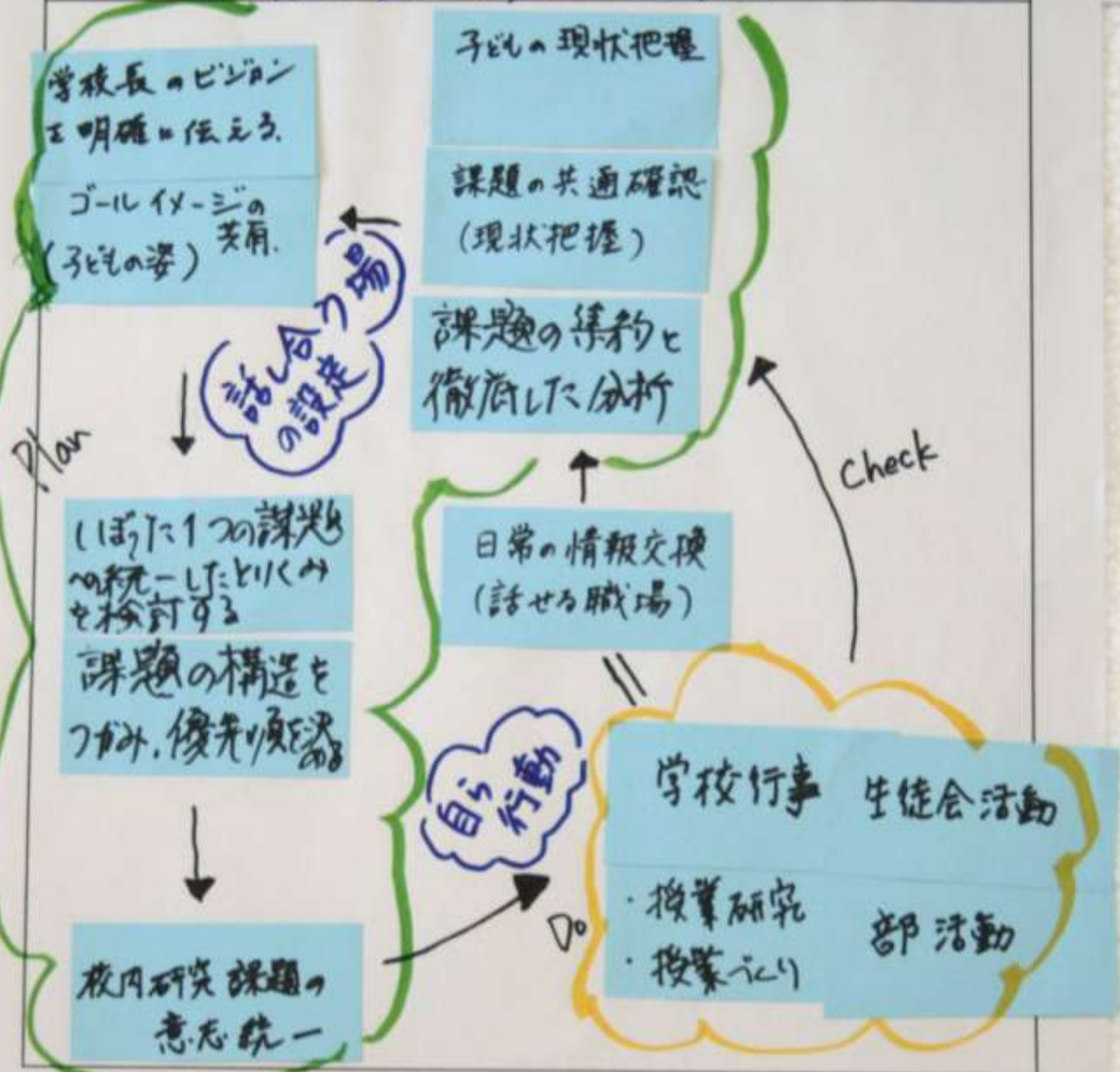
研究授業の
活性化
小中連携

学力向上のための
教員の意志統一

各校の課題

テーマ

校内研究への意志統一



Plan

Check

Do

授業研究の
役割り/分担

学習集団づくりの
教員交通の手法
が面白い。

第18号

各研究授業の
積み上げが
各組への視点
を

家庭学習の
学習規律は
と確認の便。

研究の検証
検証方法。

学校全体として
取り組むことの
支援の要と生徒
のかわり(教師、生徒)

参観シート
→ 授業者へ返す。

生かす。かわらない
ことだけ見るとは、それ
だけ思考しつとしない
(同じような授業を繰り返す)

徹底
目標設定の検証の時
は方がわからない。
(適切なやりかた)

各校の課題

学校目標や改善案
の取組を、お話し。

授業参観の視点、

~ 効果的
な研究授業を
めざして

基準

事前

目標を明確に
研究授業に
研究指針や指示
研究授業毎に
シートが同じ
参観シートを
座席表へ
生徒の実態を
入れる。(QUR)
研究授業が
積み上げられ
参観の
視点を誘導する
授業者が、見て
ほしい視点や
生徒を事前に
tone は
毎日少
目標を設定

視点の
ポイントを
(2つ) 挙げる

目標に
どの程度
生徒に
本質的
どの教科
教材の
(教材の
使いかた)

詳細
適切か。

学びが
生徒の
どの
生徒の
支援
生徒の
基礎基本
学びの
授業の
単元
位置づけ

生徒の学習
状況の
視点
検証の
確認
具体的な
姿を

改善点には
代表を、
生徒に
ことから
の

生徒の
を
(お

事後



各校の課題	や、て、良、い、F、 と、思、い、の、研、究、修、 より、高、い、授、業、を め、き、つ、た、め、の、取、り、組、み	加力学習	学力向上	研究授業 全員の授業研
	進捗状況 確認シート	定例会 (校内の優先 順のつ)	情報の共有	指導 指導案の書方

テーマ	よりよい授業研を目指して	テーマ	
4月に方向を 全員で確認	学校の課題をわけて した優先順位の 確認(授業上向の研?) 管理職の協力 のぞと取組みの確認	話し合ったこと 忘れない手立て	一人一回の 発表公開 全員に役割 分担させる
進捗やテーマの共有 (ておとけ、多く声 をきく場面をこ)	ルールの掲示 (全教室に)	続けられる工夫 (暗集、協議、協力)	共通して取り組む ことの確認徹底 全員で先進校に 視察研修に行く

事前研
事前検討会の充実
(他教科、他学年、他職、
たのびあそび)

ふり返る。
(ア、ケ、ト、な、ど)

授業研を行う上での
約束事を書いてい!

全員授業研

指導案の書き方を
共通にする。
指導演の書き方を
指導演に視点と
共通にする。 研修や工夫

G協議
全員の発言
協議、協議
共有、配布

参観者一人ひとりが自分
の意見の補足説明
を
事前研の協議の空
指導演を上社等々
ことごとく探らぬ
工夫

研究協議の
視点を明確にする

具体的に視点を
を明記する。ターンの
統一?

支援の必要な
生徒に対する
配慮

実践と
理論

授業をみる視点、
を共通化する

協議の視点
を明確に。目的は?

業評価と
座席表の活用

相い、に、力、を、
をおく。研究テーマに
したその
治った指導案の
ては型つべり。

学校の課題にまた
助言の招へい。おからの授業に
生かすこと
する

いつでも授業を
見合えるふい
をつくる

用りをまきこむ。
(時には大きく)
進捗→中身の

日常の子と先生の
信頼関係の向上
(声かけ、顔合わせ)

参観員との協力
和
(日本、先生、E、H、H、H)

教師集団への
エンカウンター



各校の課

校研究のあり方
システムづくり

授業改善の共有

全員で取り組む
体制 (意識改革)

研究組織・計画
の充実

カンパニーへの
共有

研究テーマの
共通理解

校内研修の組織
づくり

授業研究の
事後研修方法

各校の授業研究
づくり

教員集団による
研究ビジョンの共有

協議の持ち方
*素直な意見が
言えるように

テーマ 研究ビジョンの共有

研究推進委員会

管理職・研究主任
のリーダーシップ

リーダー

同僚性を
高める

多忙性を
少なくする

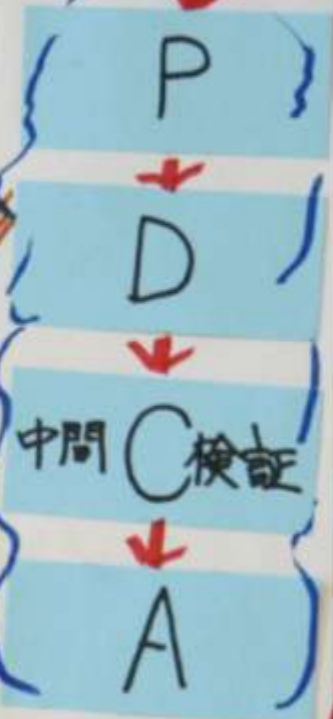
**仲間
組織**

課題明確化

臨す生徒像

研究
ビジョンの
共有

研究計画立案



振り返り

達成感
成就感

モチベーションUP!